

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高1の夏に初めてオープンキャンパスに参加し、学生さんたちの明るさや、女性としての魅力、キャンパスの様子に感銘を受けました。また、音楽文化専攻の充実したカリキュラムは、私の夢も実現させるうえでとても重要だと知り、同志社女子大学で学びたいという気持ちがさらに強くなったため、第1志望に決まりました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。

※音楽学科入試課題については、『2020年度
音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕

試験曲は決まっていたが、しばらくは基礎練習のみで、指の力を付ける事に専念しました。また、私は理系クラスに通っていたので、現代文の授業が少なく、塾で現代文の読解法などを勉強していました。

〔夏休み〕

AO入試の論文課題と並行して、一般入試課題である小論文の対策を行いました。文章力だけではなく音楽に関する知識も問われるので、音楽史の本を読んだり、作曲家について詳しく調べたりして、知識を増やしました。学科は、漢字や熟語の意味と覚えたり、過去問を何度も解いて自分の苦手な所と克服する事に努めました。

〔2学期～入試直前〕

楽典は、過去問で毎回満点がとれるようになり、コールユーズンには苦手な所や、よく出題される部分を重点的に練習しました。実技は、以前に基礎をしっかりとやっていたおかげで音色がかなり良くなり、モ4バージョンを高く保ちながら最後まで練習に励む事が出来ました。また、この期間に同志社女子大学の冬期講習会があるので、実技レッスンや楽典の模擬テストは是非受けてみて下さい。試験場やレッスン室の雰囲気と直に感じる事が出来ます。前もって体験していれば、当日の緊張も少しは和らぎます。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

生徒会役員だったため、帰りが遅く実技の練習が出来ない日がよくありました。それを機に、短い時間でどのように練習すれば効率良く上達出来るかと考えるようになり、以前よりも意識して練習するようになりました。しかし、入試間近になると試験曲ばかり練習するようになるので、私にとっては精神的に一番辛い期間でした。同じ事ばかりしては本当に疲れてしまいます。時には全く違うジャンルの曲を弾いたり、学校帰りに買い物をして気分転換とするなど、自分のしたい事を優先するのも大切です。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験期は本当に辛く、果てしなく続くように感じてしまいます。しかし、そんな辛い時期を乗り越える事が出来た来年のみなさんは、きっとこの同志社女子大学で素敵なキャンパスライフを送っているはずです。どうか自分を信じて、精一杯頑張ってください!!